

リーディングDXスクール事業【実践事例】

嘉手納町立嘉手納中学校（沖縄県）【指定校】

<教育利用> ⑨「敬語の学習《国語》」

| | | | | |
|----|-------|-------|--|---------------|
| 校種 | 小・中・高 | 校務・授業 | みんなで生成AIコース(ChatGPT) テキスト生成、画像生成、動画生成 | 実践タイトル:《国語》敬語 |
|----|-------|-------|--|---------------|

| | | | |
|---|-------------------------------------|-----------------------------|-----------|
| 学年・教科 | 1年・国語 | 単元等 | 敬語(2時間構成) |
| 本時のねらい | 生成AIによる短文添削を通して敬語に気をつけながら1年のふり返りを書く | | |
| 使用するICT教材 | スライド・Chat GPT(みんなで生成AIコース) | | |
| 授業の流れ | | | |
| 【1時間目】 | | 【2時間目(本時)】 | |
| 1. めあての確認 | | 1. めあての確認 | |
| 2. 生成AIの使い方についてのおさらい | | 2. 課題②(前時で書いた短文を生成AIに添削させる) | |
| 3. 敬語について学ぶ(丁寧語・尊敬語・謙譲語) | | 3. 課題③(やや長い文を書き、生成AIに添削させる) | |
| 4. 課題①(敬語の種類に気をつけて短文を書く) | | 4. 課題の提出 | |
| 授業のポイント | | | |
| ①敬語の種類について学び、丁寧語・尊敬語・謙譲語を意識しながら短文を作成した。(前時) ②前時で取り組んだ短文を生成AIに添削依頼。③生成AIが添削した内容をスライドへコピー。 ④自分の間違いを見つけ訂正する。⑤「学校の先生方へ説明する」という場面設定で、学んだ敬語を使って「1年のふり返り」を書いた。さらに、その文章を生成AIに添削させ、文章を完成させた。 | | | |

【パイロット的な取組の段階】
② 使い方を学ぶ段階

【実践概要】 左記の通り

【入力したプロンプト】
敬語の丁寧語の訂正をお願いします
姉はとても優しいです。私は本を読みます。
訂正いたします。
お姉さんはとても優しいです。私は本を読みます。
丁寧語を使う時のポイントをお願いします
短くお願いします

- 丁寧語を使う際のポイント:
1. 目上の人や知らない人に対しては敬語を使う。
 2. 「です・ます」調を使って丁寧に話す。
 3. 動詞や形容詞の語尾に敬語の接尾語を付ける。
 4. 自分自身を表す場合は丁寧な代名詞を使う。
 5. 下位の立場の相手には謙譲語を使う。
- 以上、丁寧語のポイントです。

《上記のようなやり取りを繰り返していた》

前の授業で作った文章を再度考えてみよう!

- ▲主語はちゃんとある…?
- ▲文章の中で行動している人は誰になっている…?

尊敬語

- ・上司は椅子におかけになる。
- ・上司は本をお読みになります。

訂正した文章

- ・上司は椅子におかけになります。
- ・上司は本をお読みになります。

使い方のヒント

「お～になる」の形を使用する
「～ます/～です」を「～なさい/～てください/～をお願いします」に変える
「～する」を「～なさる」に変える

1. 敬語表現の接続: 文章全体で一貫した敬語表現を使用するために、接続詞や助詞も適切に敬語に変える必要があります。

ステップアップ課題

《課題内容: 1年間の振り返り》
▲努力した事、2年生に向けて、出来たこと、出来なかったこと、などを、学校の先生方に見せるように、学んだ敬語を使って書いてみよう!

自分で考えた文章
私は二年生になってから部活や勉強で教えてくださったことや自分からつかみにいったことを無駄にしないように頑張りたいです。
今年の四字熟語は凡事徹底に決めました。なぜなら、当たり前のことを当たり前に自分でやれるものは自分で言うよう二小さいことも地味なこととも頑張っています。

私は二年生になってから、部活や勉強で教えていただいたことや自分から取り組んだことを無駄にしないように頑張りたいと思います。今年の四字熟語は「凡事徹底」に決めました。なぜなら、当たり前のことを当たり前に自分でやれるものは自分で言うよう二小さいことも地味なことにも頑張っています。

訂正した文

実践のふり返り

【成果】英語同様、自分のペースで課題に取り組むことができた。生成AIとのやり取りを通して、間違いを見つけ工夫しながら訂正することができた。
【課題】敬語について理解不足の生徒もみられ、短文添削・アドバイスを振り返るだけで精一杯の生徒もいた。「敬語」は中2で取り扱う学習内容でもあるため、進級後に再度学習することを伝えた。